

平成26年5月15日（作成日）

平成26年6月18日（Rev.6）

「水取1・2丁目区自主防災会 シェイクアウト訓練」の実施について

1 訓練の目的

平成28年4月14日および16日、熊本地方を震源とする震度7の内陸型地震が発生し、49名の方々がお亡くなりになり、棟の建物が全壊した。

この地震で、益城町では、1,023棟の全壊に対し、50才以上の高齢者19名、そのほとんどが、圧死又は窒息死でお亡くなりになっている。他に20才大1名が頭を柱が直撃し、お亡くなりになっている。

これは、おそらく、98%程度の方々が、何がしかの行動を瞬時にとったために助かったであろう、そして、挟まれた場合でも、近所の人に救助されたであろうと推定できる。

その行動とは、うつ伏せになった、頭を守った、なにかにしがみついた、すなわち、シェイクアウトであったであろうと推定できる。

水取1・2丁目区自主防災会では、災害リスク検討から、火災、地震、洪水の3つを「危機」に想定し、緊急時の対応と準備を計画にした。そのうち、地震についての対応はシェイクアウトを採用した。

米国のシェイクアウトは、はるかに日本より進んでいる地震研究による「地震はいつでもどこでも起きる」を結論として、導きだされたものである。このため、米国は「活断層がないから大丈夫」と安心するようなことはなく、地震はいつでも、どこでも起きる、と訓練をしている。

計画を作成した以上、訓練を実施しなければならない。むしろ、訓練をしていない計画は使ってはならない。そして、訓練を評価し、計画を改善しなければならない。これを米国では、「終わりなき挑戦」と言っている。

この訓練は、「終わりなき挑戦」を始めるため、水取1・2丁目区地区緊急時計画に基づき、地震時の基本行動の習熟を図ることを目的として行い、事後アンケートにより評価する。

- ・ シェイクアウト
- ・ 安否確認
- ・ 被災者救助要請

2 実施日時

平成28年6月19日（日） 午前 8時50分 開始（荒天時は順延）

シェイクアウト訓練を実施する旨を掲載した web ページ作成する^{※6}

3 主催

福井県小浜市、水取1・2丁目 自主防災会
(連絡先 0770-64-5929 岩崎)

4 協力

株式会社 EPR クリエイト

5 対象地域

福井県小浜市水取1丁目および2丁目

6 想定する参加者(個人・団体)

対象区域の家庭 約260世帯

ただし、対象区域外の住民からの参加希望があった場合は、**参加者**に含める

7 訓練想定(被害想定)

- ・30年確率70%と言われる南海プレートでの地震が発生
- ・対象地域で震度6弱の前震、震度6強の本震が発生。
(震度は東日本大震災の震源地と計測震度の評価による)
- ・遠方地震のため、P派とS派、及び緊急地震速報を模擬する。
- ・自主防災会役員1人につき、1世帯の救助信号(本震で家屋倒壊を想定)ありとする。その他の家屋は、前震を含め影響があったが軽微で、すぐに復旧したとする。

8 訓練内容(連絡、報告、放送等には、すべて「訓練」をつけること)

8:00 役員、区民、**参加者**は水取センター集合、訓練事前ブリーフィングを実施

8:50 P波、わずかな揺れ 「地震が発生しました」(区内訓練放送※¹)

(震源距離250km P派7km/sで36秒後)

8:50 区民は、任意にPULL情報(地震速報)収集、影響想定

8:51 緊急地震速報「警報音+地震がありました、強い揺れが予想されます」(区内訓練放送※¹)

8:51 区民および**参加者**は、その場でシェイクアウト

8:52 S派到来 震度6弱 「ただいま強い揺れが発生しています」

(震源距離250km S派3km/sで83秒後)

8:55 揺れ沈静化確認 「地震の揺れは収まりました」(区内放送※¹)

(地震の継続時間3分とする)

区民は、任意でPULL情報(津波警報)^{※7}を確認

- 区民は、任意で、災害伝言ダイヤルを使い自身の安否を登録し、遠方家族の安否を確認する(模擬)
- 区民は、防災行政無線のボリュームを下げる。
- 区民は、任意で、避難所および避難路の安全が確認できた場合の避難を行う。この際、受電ブレーカー、ガスの元栓を切り、玄関に避難所へ行った旨の表示を行う。(表示以外は模擬) *2 *3
- 9:00 区民は、家の外回りの安全を確認
(液化化現象や地割れは発生せず、家屋そのものは健全である)
- 区民は、近所の倒壊建物を調査
- 役員は、水取センター集合
- 9:05 役員は、水取センターで対策本部設置
安否確認放送を行う者、点検を行う者の役割分担
- 9:20 役員は、点検表を持ち担当地区の安否確認へ
- 9:30 P波、わずかな揺れ 「地震が発生しました」(区内訓練放送*1)
- 9:31 緊急地震速報「警報音+地震がありました、強い揺れが予想されます」(区内訓練放送*1)
- 9:31 区民および**参加者**は、再びシェイクアウト、屋外でも同様
(倒壊家屋発生、1役員1家屋を想定、その他、軽微な被害を想定)
- 区民は、任意で PULL 情報(津波警報)を確認
- 9:34 揺れ沈静化確認 「地震の揺れは収まりました」(区内放送*1)
- 区民は、近所の倒壊建物を調査、あれば役員に連絡
- 9:35 役員は、安否確認再開
役員または区民は、倒壊建物および放送が聞き取りできる家に声かけ「〇〇大丈夫ですか、かならず救助に来ます」
役員は、生存確認の上、救出タグ(またはイエロータオル)をつける
(イエロータオルは、区としての救助要請信号である。救助笛を持っている人は、これを鳴らしても良い。)
- 9:40 役員は水取センター集合 対応のゴールを決め対策の優先順位(生存者の救出を自ら行うかどうかを含め)をつけ、行動計画と役割分担する。
(圧迫状態にある生存者は、クラッシュ症候群防止のため、救助は専門救急隊にまかせる必要がある。)
- 9:50 対策本部再開 市災害対策本部*4および119番*5へ救助要請を行う。
対策本部は、罹災申請書の受付窓口を設定し、設置したことを放送する。(区内放送*1)

「以上を持ちましてシェイクアウト訓練を終了します。アンケート用紙を記入

し、班長さんに渡してください」(区内放送※¹)

役員は、水取センターにて、批評会(AAR:アフター・アクション・レビュー)を行う。

役員は、アンケート回収

9 シェイクアウト+1 (プラスワン)

- (1) 救助信号確認による安否確認訓練
- (2) 安否確認に基づく災害救助要請訓練

※¹ 区内放送設備には以下の制約がある。

- ・ 30分前以上に録音
 - ・ 通知音がまず入る
 - ・ 10分間隔でしか録音できない
 - ・ 他の区が、システム接続中または同時刻先行予約した場合は、使用できない
- なお、倒壊想定家屋は、放送設備を通りに面した窓際に置き、戸を開けておく。

※² 地震は、いつでもどこでも起きる、車では避難できない、そのことを念頭に置く必要がある。また揺れだけでなく、地割れ、地すべり、液状化の危険も常にある。なお、この断面での要配慮者の避難誘導は正当化されない。また、どこにいても、揺れを感じたらシェイクアウトを実施しなければならない。

※³ 空き家にするため、安否確認の役員に知らせる必要がある。また、空き巣ねらいを誘発しかねないので、必要に応じ、施錠する必要がある

※⁴ 死傷者、物損等を実際に連絡する。罹災証明申請をまとめて、持っていくことを連絡する。電話番号は 64-6006

※⁵ 救急車の要請を実際に 119 番連絡する。電話番号、相手は別途

※⁶ 区としてのホームページはないため、協力者(株EPRクリエイト)のホームページを代用する。

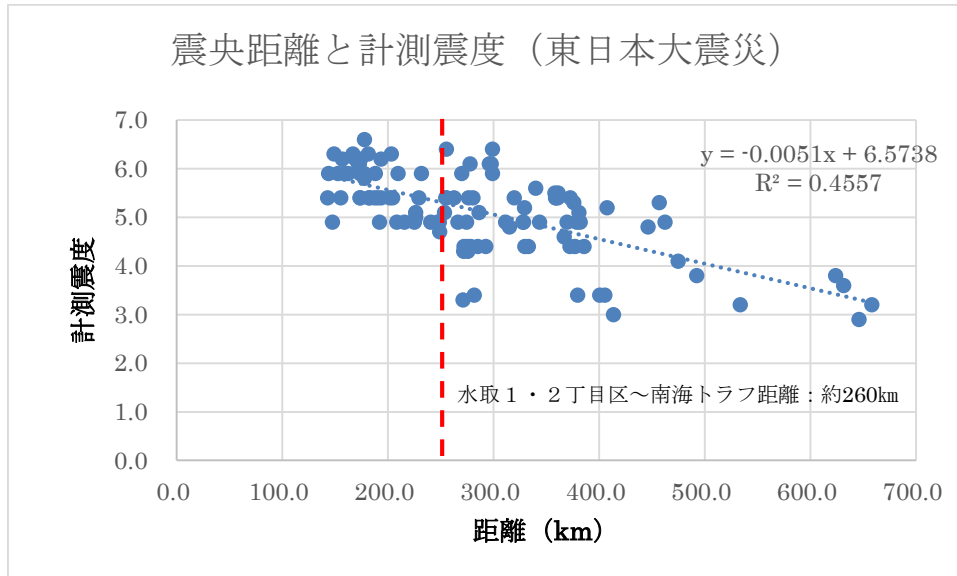
<http://www.eprcreate.co.jp/information/kunren/>

※⁷ 協力者(株EPRクリエイト)のホームページに Pull 情報(地震速報および津波警報を設定する。

以上

(参考)

- 東日本大震災の震央距離と計測震度



- 地震推進本部 福井県周辺の主要活断層帯と海溝で起こる地震

地震	マグニチュード	地震発生確率(30年以内)
南海トラフ	8～9クラス	70%程度
三方・花折断層帯	7.3程度	ほぼ0%～0.6%

- 南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法の南海トラフ地震防災対策推進地域
福井県はなし